

第1回 第3次日野市立図書館基本計画策定委員会 議事録

日時……… 平成 29 年 6 月 23 日（金）19：00～

場所……… 中央図書館

出席者…… 委員 10 名（戸崎 大矢 小形 石川 小林 山口 田代 金子 岡元 飯倉）、
事務局 4 名、オブザーバー（株ぎょうせい 2 名）

配布資料

- ・資料 1：第 2 次日野市立図書館基本計画進捗管理報告書
- ・資料 2：日野市立図書館利用者・未利用者アンケート（速報）

1. 事務局より

- ・策定委員会の議事録をホームページ等で公表していきたい。公表にあたっては、要点録的な形とし、個人のプライバシー等に配慮したものを作成する。⇒了承
- ・議事録を作成するにあたって、会議を ICレコーダーで録音させていただきたい。議事録作成後は、直ちに音声データを消去するものとする。⇒了承

2. 委員長・副委員長選出

- ・委員互選により、山口委員を委員長に選出
- ・委員長の指名により、金子委員を副委員長に選出

3. 議題

（1）第 2 次日野市立図書館基本計画進捗管理状況について（報告）

○事務局 : 資料 1 を元に説明。

（2）市民アンケート結果速報（報告）

○ぎょうせい : 資料 2 を元に説明。

（3）日野市立図書館の現状と課題について（議事）

【アンケートに関する意見等】

- ・アンケートに関して、web アンケートの回答数が低いことについて、分析者としてどのように考えているか。
- ・web アンケートは、図書館と日野市のホームページに掲載して PR した。しかし、日野市のホームページについては、表紙の「トピック（注目情報）」に掲載したが、次々に新しい情報が上がってくるため、埋もれてしまったことも回答者が少ない原因の一つかもしれない。
- ・アンケートの属性の分析に当たっては、媒体ごとに分析をすることを提案する。
- ・アンケートの回答者が 30 代から増える理由がわかれば知りたい。20 代以下の利用者が少ない理由を学校等と連携し、調査してもいいのではないか。
- ・未利用者のアンケートは回答が 3 票という結果。未利用者の状況把握については別の方法を考えるべき。

- ・利用者アンケートの実施状況をみたが、30・40代の子ども連れの方が多く、意向が反映されていると感じた。自由記述の詳細な内容を知りたい。
- ・来るのを待つだけでなく、出ていくことが重要。アンケートについては未利用者の回答が少なかったことが残念。PR不足を感じる。

【第2次基本計画について意見および今後の計画策定にあたっての意見等】

- ・進捗管理報告書について、取り組みに優先順位はあるのか。
- ・取り組みの優先順位について。計画そのものに記載はしていないが、重点を置いている取り組みはある。「1.図書館は、すべての市民が利用しやすい図書館をめざします」では、子どもを対象に「子ども読書活動推進計画」を策定し、推進している。障害のある方へのサービス、移動図書館についても、担当を置いて取り組んでいる。一方、外国人へのサービスは、ニーズの把握が遅れている。
- ・タイムラインをつくり、今年度重点的にやることを明記すれば、図書館が努力している点が市民に伝わりやすい。
- ・図書館には週に一回以上来ているが、これまで計画があることも知らず、利用者アンケートにも気づかなかった。計画を目にしている人はどれほどいるのか。広報に特集を組んで目に触れる機会を増やしたり、概要版を作ってはどうか。
- ・計画の策定と利用者アンケートは、広報や市・図書館ホームページに掲載している。前回計画の記載は網羅的であったが、次期計画では重点項目をわかりやすく示したい。
- ・一枚で全体像がわかる概念図や、概要版があればよいと思う。
- ・行政の後押しをすることも計画策定の目的の一つ。網羅的だという指摘について、目玉を示すことも一つのやり方だが、弱点も含めてある程度広く記載した上で何を重点的に取り組むかについて、今後議論していきたい。

【各館の特長等について】

- ・分館ごとの地域と連携したせつかくの良い取り組みが、利用しない方には伝わっていない。
- ・分館ごとの特長のPRが十分でない。
- ・地域の図書館に興味を持ち、本を手にとってもらうためには、各図書館の特長づけなどが必要。
- ・日野市には歴史好きの人が多く訪れているが、図書館に新選組コーナーがあることは知られていないのではないかと。利用案内をみても、分館ごとの特長は記載されていないため、実際足を運んでみないと分からない。
- ・多摩平図書館は、子育て施設との複合で子どもが多く賑わっている。中央図書館では難しいが、分館によっては、近い役割を果たすことができるかもしれない。

【大学等との連携についての意見】

- ・大学との連携の進め方について知りたい。
- ・実践女子大学の図書館とは相互利用の協定を結んでいるが、利用は少ない。中央大学は八王子

市になるため、直接的な連携はない。首都大学東京の図書館は、連携するまでもなく、都民が誰でも使える状況。明星大学の図書館は、日野市民にも門戸を開いている。図書館のヤングスタッフ事業（注1）では、明星大学や実践女子大学の学生と、市立図書館が直接連携することができている。

（注1）市内在住・在学の大学生、高校生が公募で集まり、ひのヤングスタッフとして活動。青少年が自ら企画立案し、おすすめ本の紹介（BOOKパレード）などのイベント開催、推薦図書リストの作成を行っている。

- ・首都大学は都民が誰でも使えるが、積極的に情報開示していない。サービスがあるのと、実際に情報が開示されている事は別の問題。
- ・2年前にヤングスタッフの活動で、ひまわり号を学生にPRする活動を行った。ひまわり号がきっかけとなり、図書館関連のサークルが立ち上がり、一緒に活動を行っている。明星大学の図書館よりも、地域交流センターとの連携を進めている。
- ・学芸大学は、小金井市民は自由に入れるが、本は借りられない。学生との交流は、学校や公民館などでは盛んだが、図書館とは現状ない。図書館とどういう関係を作ればいいかは、自治体の方もあまりイメージできていないのではないかと。日野のヤングスタッフの活動は一つの参考となるのでは。
- ・小金井市では、市民からの学芸大の図書館を使いたいという要望もあるし、広報などに掲載している。
- ・利用したい人は、自ら問い合わせる人も多い。逆に言えば、大学側からも告知すべき。市の広報にも掲載されている。大学としても学生獲得のため、地域住民の協力はとても大切である。
- ・若い世代は情報リテラシーが高く、大学にも図書館があるため、調べ物のために市の図書館に来ることは難しいかもしれない。
- ・大学の図書館はコンセプトが違う。公共図書館の蔵書量は学校図書館よりはるかに多い。学校図書館に入りきらないものを、地域の図書館が確保していることを、知ってもらうために情報の発信は重要。
- ・学校図書館と地域の図書館との棲み分けも必要。

【蔵書、図書購入についての意見】

- ・書庫に入ってしまった図書は活用されていないのではないかと。
 - ・コンピューター目録になってからは、書庫に入っている本も使われるようになった。検索能力を高めれば、これまで以上に幅広い図書へのアクセスが可能。探し出す力を付けることは必要。
 - ・図書館は新刊書を買わないと認識しているが、どうなのか。
 - ・新刊書を買っているが、貸出されていることが多く、目につかないのではないかと。
- （図書の）評価が定まるまでには時間もかかるし、評価されるためには多くの人に読んでもらう必要がある。購入する図書は精査して選書している。地域資料等は貸出は少ないかもしれないが、未来に繋ぐ資料として購入している。

- ・漫画は置かないのか。
- ・ストーリー漫画は購入していないが、今後の動向を見ていく。
- ・図書館の図書購入の基準として、はやっているからすぐ買うのではなく、評価が定まった段階で、今後残る本を買うことが必要だと考える。
- ・目録の電子化により書庫の本が活きるようになった一方で、人気のある本を積極的に受け入れる流れもある。ポップ（本の紹介文）の作成など、興味を引く展示によって「攻める」姿勢が今後は求められるのではないかと。

【移動図書館についての意見】

- ・移動図書館にどのような図書を載せるかは今後大きな問題になる。利用件数は低い中で運営コストはかかっていると考える。
- ・個人貸出では、利用される方と顔の見える関係があり、その要望をくんでいる。団体貸出で行く幼稚園・保育園・学童クラブ等はターゲットが「子ども」であり、持っていく図書も明確である。
- ・物流コストが下がっている中、完全なオンデマンドとして個別配送システムを導入した方がいいという議論が出るかもしれない。
- ・移動図書館は近隣に図書館がない地域の方が利用されることを想定している。個別配送システムを作るとすれば、対象が市民全体に広がるため、明確な線引きが必要となる。
- ・特定の資料を受け取るだけでなく、自分で選びたいという要望を持っている方が多いように感じる。
- ・サービス需要について、アンケート調査をしてはどうか。個別配送システムの導入が不要だということの根拠になる。
- ・60年代から継続されている移動図書館だが、時代の変化に応じて役割が変わってきている。時代に対応したサービスのあり方について、検討する必要がある。
- ・少子高齢化の中で、先進的に移動図書館を行っていることを明確にするべき。切り離してしまうと、インパクトが弱いと感じる。

【図書館のサービスについての意見】

- ・進捗管理報告書 P4 の「7 外国人へのサービス」について、国際交流団体と連携してどのような取り組みを想定していたのか。
- ・市内の国際交流団体を通じて外国人のニーズを把握し、図書館が外国人の方にも役立つ取り組みの検討を想定していたが、実現には至っていない。
- ・日野市立図書館の登録者数は2割程度で横ばい。これは、関心がある人の割合に変化がないことを示している。
- ・(駅前前の返却ポストについて) 考えていない。回収に行くための人員の問題の他に、返却場所も図書館とすることで、足を運んでもらう機会を増やしたい。
- ・今後利便性の向上について考えていくことも必要。今結論を出す必要はない。(駅前前の返却ポストの設置に対して、考えていないというかいという発言に対して)

- ・農家の人は、ネットでは得られない専門的な内容を学べる専門書を求めているが、図書館にはあまり揃っていないため利用しないとのこと。“静かなにぎわいがある図書館”にするため、日野産の野菜を販売して、本も借りてもらうような取り組みがあってもいいのではないかと。図書館に来るきっかけとなる。
- ・姉妹都市の紫波町図書館は、農業支援コーナーを設けたり、隣接しているマルシェにも図書館の本を展示する取り組みが行われている。日野市の産業の様々な側面を知ってもらうきっかけとして、前向きに考えていきたい。
- ・小学校は地産地消で日野市の野菜を使った給食があり、取り組みが実現すれば、小学生にとっても良いきっかけかもしれない。
- ・第2次計画の取組状況だけではなく、長期的な利用者の動向や子どもの利用度等も合わせて考えていく必要がある。サービス実績を見ると、子どもの登録率が6割を超えていた時代もあったが、現在は2割程度。子どもへのサービスのあり方が変わってきている。大学図書館との連携だけでなく、学校図書館との連携についても全体計画で触れていく必要がある。アンケートから、月に2・3回は来ている常連の人が多く一方、利用者は市民全体2割程度と二極化している。裾野を広げるためのPRについて検討が必要。
- ・登録率について、大人は横ばいだが、子どもが減っている。立川市の登録率は40%近くあるが、貸出者数と登録者数を割ると、日野市は年間40冊/人、立川市は20冊/人程度。利用冊数は日野市の方が高く、リピーターが多いため、裾野を広げるきっかけが必要だと思う。
- ・広報でもおはなし会の案内等をあまり目にしないように思う。
- ・おはなし会は月1回広報に掲載している他、スマートフォンで見られる子育て情報サイトでも告知している。登録率については、自治体によって算出方法が異なるため、単純な比較は難しい。貸出できる冊数が以前より増えたことで、カード一枚で家族全員の本を借りられることも、登録率減少の要因の一つと考えている。登録率以上に利用実態はあるように思う一方、子どもの利用が減っているのも現実であり、学校に出向いたり、本を届ける等のサービスに力を入れている。
- ・購買行動の変化の影響も大きい。本は買った方が早く、いらなくなった本は買い取ってくれる環境もある。本離れも進んでおり、価値観やライフスタイルの変化も考慮する必要がある。本の良さを再発見してもらう取り組みが大切。
- ・借りることも選択肢の一つとして認識してもらう。
- ・大学図書館にはラーニングコモンズ（学習支援施設）等のスペースがあり、時代とともに変化しているように思う。同じような機能が公共図書館にも必要ではないか。武蔵野プレイスには19歳以下しか利用できないコーナーがあり非常に賑わっている。子どもを引き付ける要素も必要だと思う。
- ・学校図書館でも、様々なニーズがあり図書館のあり方として議論になっており、公共図書館であればなおさら難しい。一方、スペースを作ることで、勉強するために図書館に来る子も増えるのではないかと。インターネットと書籍の情報では価値が違う。
- ・図書館の中に、フリースペースと、本を読む空間を分けるスタイルはある。ゾーニング（区分け）がきちんとできると良い。市民のフリースペースをつくることで、市民活動支援につ

ながる仕組みができるとういのではないか。

- ・ラーニングコモンズはあるが、ワーキングスペースがない。図書館にオフィスの代わりになるような場所を設ければ、家族交流の支援にもなるのではないか。
- ・子どもには、読書とは別に調べる力を養ってほしいと感じる。インターネットで検索できる情報だけではなく、新聞等の使い方を知ってほしい。自分の調べたいものに行き着く力を養うサポートも、これからの図書館の役割ではないか。調べる力、読書の力の両方を伸ばす取り組みを考えていきたい。

【委員長まとめ】

①施策に優先順位をつけてどのようにみせるか、②計画の啓発に向けた工夫、③裾野を広げるための工夫、④調べる力をどのように伸ばすか、といった点で多くの意見を頂いた。いい計画となるよう取りまとめていきたい。

4. 今後の日程

(1) 市民ワークショップの開催

○事務局 : 7月22日(土) 17時30分～、場所は中央図書館を予定。7月1日付広報で参加者を募集する。時間があればご参加を。

(2) 第2回策定委員会

○事務局 : 9月16日(土) 10時00分～、場所は中央図書館を予定している。

5. 閉会